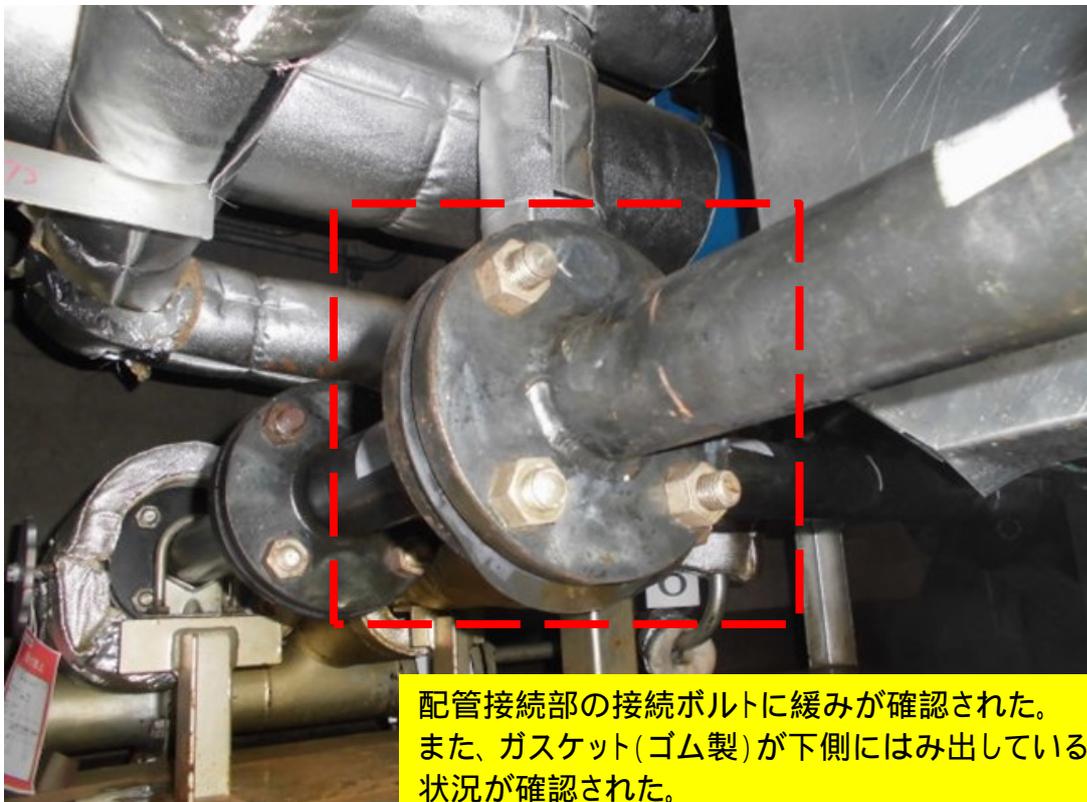


プレス公表（運転保守状況）

2018年6月28日

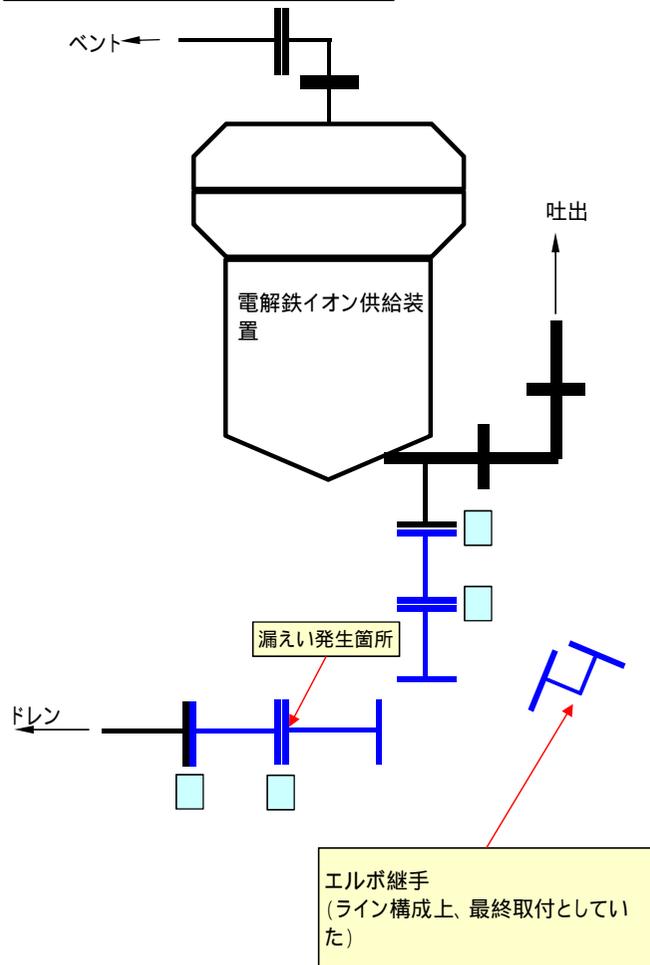
No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
	2018年 6月4日	6号機	タービン建屋（非管理区域）電解鉄イオン供給装置からの海水の漏えいについて(区分)	<p>【発生状況】 2018年6月4日午前11時40頃、6号機タービン建屋地下2階（非管理区域）において、電解鉄イオン供給装置*の点検後の確認運転を実施し、通常運転に移行しました。 その後、午後1時30分頃に同装置の配管接続部（フランジ部）から海水（約5,400リットル）が周辺の床に漏えいしていることを、協力企業作業員が発見しました。</p> <p>このため、同装置の運転を停止し、漏えい箇所の前後の弁の閉操作を実施したことにより午後1時48分に漏えいは停止しました。</p> <p>本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>*電解鉄イオン供給装置 熱交換器（原子炉補機冷却系およびタービン補機冷却系）の海水側配管内面に耐食性に優れた酸化鉄系防食（サビ防止）被膜を形成する装置。</p> <p>【対応状況】 漏えいした海水については、排水処理を実施しております。</p> <p style="text-align: right;">（2018年6月4日お知らせ済み）</p> <p>【原因】 漏えいが確認された配管接続部を調査した結果、当該配管接続部のボルトが緩んでいたことが判明しました。また、配管接続時の作業状況等を調査した結果、以下の要因により漏えいが発生したものと判断しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同装置点検後に漏えいが確認された配管を含む複数の配管の組み立てを実施した際、最後の配管接続部に芯ずれが発生し、適切に接続できなかったため、漏えいが確認された配管接続部の接続ボルトを一旦緩め、位置調整を実施して配管を接続した。 ・位置調整後の配管接続時に接続ボルトの再締め付けを失念したことから、接続ボルトが緩んだままの状態となった。 ・同装置点検後の確認運転では漏えいは確認されなかったものの、接続ボルトが緩んだままの状態となっていたことから、通常運転移行後に漏えいが発生した。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の配管を組み立てる際は、まずは仮組み*として手締め状態で芯ずれがないことを確認した後に本締めをする手順としました。 ・配管接続の最終確認は、接続ボルトの緩み確認などを現場にて実施することにしました。 <p>*仮組み 復旧時に配管接続部が芯ずれしないよう、接続ボルトを手締め状態で接続すること。</p>
	2018年 6月22日	6号機	原子炉建屋地下2階（管理区域）におけるけが人の発生について（区分）	-

漏えい確認された配管接続部の状況

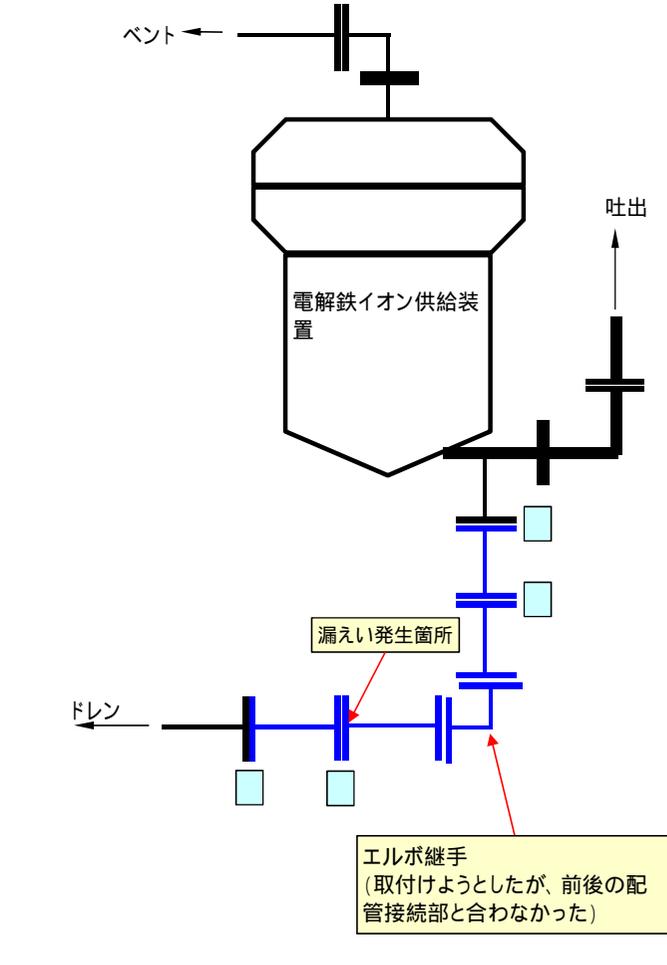


ドレン配管復旧時の状況

1. ~ の順序にて配管フランジ部の締付けを実施



2. エルボ継手を取付ける際、前後の配管接続部と合わなかった



3. エルボ継手を前後の配管接続部と合わせるため、下流側配管(漏えい発生箇所)の接続ボルトを緩めた

